

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム 星岡
所在地	愛媛県松山市星岡二丁目8番24号
自己評価作成日	平成21年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・有する機能を生かす支援に力を入れている。 ・健康管理や医療面で医師、看護師との連携を密にし、安心して過ごせるよう配慮している。 ・幼稚園、保育園との交流、小中高生の介護体験、実習生を積極的に受け入れている。 ・グループ内職員によるイベント(日本のお正月、ひな祭り、盆踊り、収穫祭、クリスマス会等)は本格的である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として長年地域に根ざしてきた中で、ホームとしても「地域との支えあい」という理念の実現に向け、運営推進会議や家族会等を軸に地域との情報交換を密にし、町内会とも良好な関係を保っている。地域ボランティアを交えての移動喫茶の実施、清掃、防災、お祭りなど地域の諸活動に積極的に参加する等、地域との交流を大切にしている。

「家族だけで話し合える場」の設定等、「意見要望を出しやすい」雰囲気づくりや、利用者の願いを叶える「○○さんの日」への取組み等を通して、利用者・家族との情報交換を大切にし、汲み取った課題・要望に対して、職員間での活発な意見交換を通してその解決・対応に努めている。例えば動物園見学や墓参り、買い物や近辺の芋畑の手入れ等、遠方から身近まで様々な外出支援を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム 星岡

(ユニット名)

花 組

記入者(管理者)

氏 名

井上 美恵子

評価完了日

21 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念である「地域との交流の中で家庭的で話し合いのできる楽しい環境作り」を実現できるよう、ミーティングで話し合い、意見の統一を図っている。 (外部評価) 「地域との支えあい」という理念の実現に向け、管理者を中心に職員同士でも話し合い、意見を出し合っている。地域との交流と「笑顔」を大切にしながら、日頃の生活支援の中で家庭的な雰囲気づくりができるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 川掃除に職員が参加したり、地域の盆踊りには入居者と職員が積極的に参加し、敬老会には会場を提供し、対象者は参加している。近隣の幼稚園保育園と交流し、お花見も一緒に行なったり、施設で行なっている移動喫茶にはボランティアの方やご家族も協力してくださっている。 (外部評価) 川清掃、盆踊り等地域の諸活動に積極的に参加すると共に、近隣の幼稚園や保育園との交流も大切にしている。移動喫茶等、ボランティアや家族の協力を得ながら様々な形で「ホームにとっての地域」という視点で近隣との交流が持てるよう工夫している。	法人は長年にわたり地域に根ざした活動を続け、ホームとしても「地域」との関わりをととても大切にしているため、今後は更に「個々の利用者にとっての『各々独自の地域』」という視点に対する意識を深めることで、より一層のきめ細やかな交流が日々の中で深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 前管理者は長年の認知症ケアの経験を生かし、認知症キャラバンメイトとして貢献している。また人材育成の為、実習生の受け入れを積極的に行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議がきっかけで開始した移動喫茶は2ヶ月に 1回定例となり、5名くらいのボランティアの方が来 てくださっている。お花見等の外出行事にも参加して 手伝ってくださる。また園児との交流も月1回の定期 となり、入居者の楽しみである。	
			(外部評価) 市役所、地域包括支援センター、市社協、町内会長、 近隣の保育園園長など、幅広い立場の方々が積極的に 関わっている。そのため、多角的視点からホームの取 組み内容や課題等について共有されており、様々な 行事や活動、改善等に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加してくださ り、行事報告やホームだよりにて様子を報告し、担当 者からアドバイスを頂いて改善につなげている。また 「センター方式」の導入にあたり、職員対象に市担当 者に勉強会をお願いした。	
			(外部評価) 運営推進会議や、管理者を中心とした市担当窓口との 情報交換を通して、具体的な示唆を受けるなど、連携 を密にしている。こうした関わりを運営上の改善に繋 げるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングなどで日頃のケアを話し合い、入居者の 安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしをして頂 けるよう支援を行なっている。	
			(外部評価) 「拘束をしないケア」を絶えず意識して工夫や努力を 重ね、日々のケアに取り組んでいる。職員による話し 合いを積極的に行い、「利用者の自由な生活の支援」 の実現を目指して、見守りや付き添いの工夫等に努め ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) サービス向上委員会に身体拘束虐待防止委員会を設置し、研修会に参加した職員に発表してもらう。職員のストレス疲労を溜めないよう、休憩を十分取れているか把握するよう心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) グループ内に専門家を置き、必要な人には、活用できるよう窓口を設置している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際に利用料や起こりうるリスクなど詳しく説明し同意を得ている。入居者の状態変化により、契約解除に至る場合は、ご家族と対応方針を相談している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を作成し自由に意見を出して頂けるよう設置している。家族会などで要望意見などを、自由に発言して頂く雰囲気作りに心掛けている。 (外部評価) 意見箱や利用者・家族との日常の関わりに加え、アンケートやメールによる意見交換を行い、また家族会で「家族だけで話し合える場」を設定する等、「意見や要望を出しやすい雰囲気づくり」を心がけている。また、運営推進会議等様々な機会を通して情報を共有化し、要望の実現に向け積極的に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回のメイト会を行い自由に意見や要望を出せる雰囲気を作り意見を聞くようにしている。 (外部評価) 管理者は、職員会や全体会議等、意見交換の場の設定と共に、休憩時間を上手く活用する等により職員が自由に意見を出せる雰囲気を大切にしており、迅速で適切な対応を図り、意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けて情報提供したり支援している。資格取得後は本人の意向を重視しながら職場で生かせる労働環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外で行なわれる研修には代表の職員が参加し、職員会で発表してもらい、研修内容は全職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地区のグループホーム連絡会に所属し、他グループホームとの交流や学習会を行い、サービスの質の向上を目指している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と話をすることを大切にし、悩みや困っていること、希望や願い等を日常的な会話の中で引き出すよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の苦労や今までのサービスの利用状況などこれまでの経緯についてお話を聴き、本人の状態も考慮して、よりよい生活ができる環境と一緒に考えるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めて相談に訪れた時にグループホームの利用前提に話を進めるのではなく、早急な対応の必要な相談者には可能な限り柔軟に対応し、場合によっては地域包括支援センターや他のサービス（ショートステイ、有料老人ホーム等）の利用につなげたりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者は人生の先輩であるという気持ちを職員が共有しており、日頃から入居者に教えてもらうこと、いたわってもらったり、励ましてもらう場面も多い。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 移動喫茶のボランティアの方に混じって、ご家族がウェイトレスをしてくださったり、グループホームの玄関のお花はいつも気にかけて生けてくださっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎月の命日にお墓参りを娘さんと続けている入居者がおられたり、毎朝2,3人の家族や友人に電話をかける方もおられる。馴染みの関係が継続できるよう支援している。「〇〇さんの日」と称しサービス計画に入れて馴染みの場所に行ったりもしている。 (外部評価) 利用者それぞれに「〇〇さんの日」という日を設定することで、職員間で利用者の「馴染み」について自然と情報交換が行われ、それまでの関係性等について共通の視点を持ったケアに努めている。また、冠婚葬祭や墓参り、利用者本人とゆかりの深い生活行事に利用者自身に関われるような支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個別に話を聴いたり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士が過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役になって支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで利用契約が終了してもお見舞いに行ったり、亡くなった入居者の奥様のサービス利用の相談に乗ったり、入院された方の介護保険の更新申請を代行させて頂いたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の言葉や言葉にしづらい思いを日々の行動や表情から汲み取り、把握するよう心掛けている。 (外部評価) 利用者の日常生活の様子やケア、対応等に関するきめ細かな記録と情報共有を通して、日常の様々な場面の中で表出される思いや意向を汲み取って対応しようと努めている。	利用者の心身状況について、全職員が随時把握して情報共有するためにきめ細やかな記録がなされているため、今後はさらにこの貴重な情報の整理や共有の方法を工夫することで、より一層支援に役立てていくことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や関係者から聞き取ったり、日頃の訪問時に知人、友人、親戚、家族から少しずつ把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 関係者による「できない」という情報にとらわれず、できる力、わかる力を暮らしの中で発見していくことに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人が自分らしく暮らせるよう職員や家族関係者の気づきや意見を反映しながら本人本位の介護計画を作成している。「〇〇さんの日」に実現したい本人の希望も入れたりしている。 (外部評価) きめ細やかに記録し、個々の介護目標毎に一応の個別評価をする等を通して、綿密なモニタリングができるように努めている。また計画策定に当たり、利用者・家族にも参加してもらうなど、思いや意向を反映できるよう努めている。	モニタリングについては、次の計画策定と実行へ取り組んでいくために、評価の仕方をさらに工夫することを期待したい。また、介護目標は、利用者と職員がより一層達成感を実感しながら進めていける様な工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に食事量、水分量、排泄など身体的状況及び暮らしの様子、本人の言葉、エピソード等を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしており、日々のかかわりや介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 昨年末より短期利用型共同生活介護（ショートステイ）を開始し、入居申し込み待機者を中心に体験入居をして頂いている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回ボランティアさんの協力により、定期的に移動喫茶が開催され、また月1回ずつ保育園、幼稚園より園児が交流に来てくれ、入居者の楽しみとなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医で 診察が受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を 行なったり、往診してもらったりしている。 (外部評価) 日常の心身状況やその変化が把握できるように、記録 等を通して、協力医療機関及び利用者のかかりつけ医 との情報の共有化に努めている。また、必要に応じて 家族の協力を得ながら、状況に即した医療サービスが 受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組 んでいる。変化等気付いたことがあれば、直ちに看護 師に報告し、適切な医療につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院によるダメージを極力小さくする為、時々職員が 見舞うようにしている。また家族とも回復状況等情報 交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に関する考え方、本人及び家族との話し合いや 意思確認の方法等、看取りに関する指針を定め、家 族、医師、看護師を交えて話し合いながら支援してい る。 (外部評価) 入居時に利用者・家族に看取りや終末期における対応 について説明し、入居後も状況に応じて主治医等を交 えた話し合いをして、多面的な視点で共に考えていけ る体制をとっている。また、医療面での限界を踏まえ ながら、ホームとして可能な形で利用者・家族の「心 のゆらぎ」にあわせて寄り添えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設当初、全職員対象の応急手当、救急法の勉強会を行ない、最近ではAEDを使用し救急法の勉強会を実施した。また夜間の緊急時対応マニュアルを整備し、職員会で周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回入居者と共に夜間想定避難訓練を行なっている。地域の協力体制については運営推進会議にて町内会長さんより非常放送を行なって頂けることになっており、日頃移動喫茶に来てくださるボランティアさんにも協力を呼びかけている。 (外部評価) ホームを含む法人の複合施設が、地域での災害避難拠点となることも踏まえ、ホームとしても運営推進会議等を通して情報交換し、地域の防災活動にも積極的に関わっている。また、共に支えあう為に町内会や地域包括支援センター等と協力して、地域の高齢者の災害対策について考えるよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念に基づき入居者を敬う気持ちを忘れないよう心がけている。ミーティングの際に日々の関わりかたを点検し、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。 (外部評価) 管理者・職員は「利用者を敬う」心を根底に、いかにすれば利用者・家族の「笑顔」が見られるか、何時もそのことを念頭において日常の支援を行っている。ケアの過程で「嫌がられる」場合があっても、利用者の尊厳を傷つけないよう、状況に応じた様々な工夫とチームワークにより対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者に合わせて声をかけ、小さい事でも本人が決める場面を作っている。意思表示の難しい方にも二者択一でもいいので、自己決定して頂くよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、朝寝坊 散歩 昼寝 夫婦で日向ぼっこ等柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の生活習慣に合わせて支援し、日頃も化粧やおしゃれを楽しんでもらえる様取り組んでいる。希望により美容院で、カット毛染めなどもして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 煮干の頭取り、みそ汁の具材切り、味付け、米とぎなどを入居者も一緒に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事を摂れるよう雰囲気作りも大切にしている。 (外部評価) 様々な関わりを通して汲み取った好みや要望に配慮し、栄養管理の行き届いたバランスよい食事を個々の心身状況にあわせて提供している。ご飯と味噌汁、更には収穫した芋等の食材を利用者を交えて調理する等、香りと音も含め「食事」という時と空間を共に楽しめる雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士がカロリー栄養を考えたメニューに基づき調理し、摂取量も一人ひとりチェックしている。特に水分管理の必要な入居者には、水分摂取量も記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者の状態に合わせて職員が見守ったり、介助したりして、毎食後の歯磨きをしている。就寝前には入れ歯の洗浄を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりのサインを把握し、さりげなく支援している。尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来る様支援している。失敗された場合も自尊心を傷つけないよう配慮している。 (外部評価) 必要に応じてパットを使用する以外はおむつは極力使用せず、自立支援を念頭に、記録等で排泄状況を把握しながら、トイレに誘導するなどして対応している。嫌がる方には決して強制せず、本人の好みの絵画をトイレに飾る等、さりげなくプライバシー保護と尊厳保持に配慮した対応を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄パターンを記録し、食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品、寒天ゼリー等を提供している。また散歩などを行い腸の働きを促すよう努めたり、水分補給にも注意し、なるべく自然排便が出来る様取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一応入浴日は決まっているが、一人ひとりゆっくりと時間をかけて会話をしたり、唄を歌ったりしてリラックス出来る様支援している。入浴を拒む方は言葉かけや対応の工夫、チームプレー等で入浴支援を試みている。 (外部評価) ゆったりと時間をかけて入浴を楽しめるように配慮している。入浴を好まない利用者に対しても、馴染みの職員がさりげなく上手に関わることで、清潔を保持しつつ少しでも楽しんで入浴できるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、一人ひとりの体調 表情を考慮して個別にソファやベットで、ゆっくり休息がとれる様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服用する薬の内容は、個人ファイルで全職員がいつでも確認出来る様にしている。服薬時はその人に合った服薬方法を取り、飲まれたかどうかの確認にも気を配っている。また、症状の変化の確認に努め 看護師 医師に情報提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 花の手入れ、鈴虫、カブトムシの世話、畑の作物の収穫などをして頂いたり、洗濯物たたみ、テーブル拭きなどご本人の出来そうな事をして頂き、感謝の気持ちを伝える様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月第3金曜日は、お買い物の日として希望を聞いて外出している。コスモスや桜の季節には、ご家族、ボランティアの方達に協力をお願いし、お弁当持参でお花見に出かける。また、「〇〇さんの日」と称し本人と相談しながら希望の場所へ出かける支援をしている。 (外部評価) 買い物や動物園・夏の夜市見物などの外出行事については、利用者・家族の希望を基に、適宜対応できるように配慮している。敷地内にある芋畑や花壇の手入れ・水やり等、ごく身近な外出については、見守りや付き添い等の工夫で自由にできるよう努めている。	職員は、外出する雰囲気づくりの必要性や大切さを感じ、実践へと繋げていきたいという気概をもってケアに取り組んでいる。比較的時間にゆとりがもてる日曜日を活用する等、身近な屋外への外出支援の継続・充実を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その人の希望や能力に応じて自分で管理している方もおられる。買い物に行く時は本人が、支払ったりする事を支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙が書ける方には書いて頂いたり、毎朝、家族や友人に電話する事を日課にしておられる方もある。いつでも電話がかけられる様公衆電話を、設置している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ゆず湯、菖蒲湯、七夕飾り、クリスマスツリー、ご飯の炊ける香り、みそ汁のだしなど季節感や生活感を五感で感じて頂けるよう工夫している。冬は畳スペースにコタツを設置し、ゆったりと過ごして頂いている。	
			(外部評価) 明るく清潔な空間を保つことを心がけると共に、玄関には花、廊下壁面等には行事や外出時の写真や利用者の作品を飾り、親しみやすい雰囲気づくりをしている。建物の設えは木を意識した落ち着いた雰囲気、華やかさも上手く保ちながら、季節感や生活感を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂にソファを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は全て個室になっており、使い慣れた物、写真や思い出の品々を持ち込み、入居者の居心地のよい空間を作ることが出来る。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりが使い慣れた家具、冷蔵庫、テレビ、身の回りの品等を自由に持ち込んでいる。また、家族や思い出の写真、家族の手作りの作品などを飾るなど、落ち着いて居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の入口には写真や名前を貼ったり、トイレのドアに「トイレ」と表示したりして、自立して暮らせるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム 星岡
所在地	愛媛県松山市星岡二丁目8番24号
自己評価作成日	平成21年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・有する機能を生かす支援に力を入れている。 ・健康管理や医療面で医師、看護師との連携を密にし、安心して過ごせるよう配慮している。 ・幼稚園、保育園との交流、小中高生の介護体験、実習生を積極的に受け入れている。 ・グループ内職員によるイベント(日本のお正月、ひな祭り、盆踊り、収穫祭、クリスマス会等)は本格的である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として長年地域に根ざしてきた中で、ホームとしても「地域との支えあい」という理念の実現に向け、運営推進会議や家族会等を軸に地域との情報交換を密にし、町内会とも良好な関係を保っている。地域ボランティアを交えての移動喫茶の実施、清掃、防災、お祭りなど地域の諸活動に積極的に参加する等、地域との交流を大切にしている。

「家族だけで話し合える場」の設定等、「意見要望を出しやすい」雰囲気づくりや、利用者の願いを叶える「○○さんの日」への取組み等を通して、利用者・家族との情報交換を大切にし、汲み取った課題・要望に対して、職員間での活発な意見交換を通してその解決・対応に努めている。例えば動物園見学や墓参り、買い物や近辺の芋畑の手入れ等、遠方から身近まで様々な外出支援を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 星岡

(ユニット名) 星 組

記入者(管理者)

氏 名 井上 美恵子

評価完了日 21 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念である「地域との交流の中で家庭的で話し合いのできる楽しい環境作り」を実現できるよう、ミーティングで話し合い、意見の統一を図っている。	
			(外部評価) 「地域との支えあい」という理念の実現に向け、管理者を中心に職員同士でも話し合い、意見を出し合っている。地域との交流と「笑顔」を大切にしながら、日頃の生活支援の中で家庭的な雰囲気づくりができるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 川掃除に職員が参加したり、地域の盆踊りには入居者と職員が積極的に参加し、敬老会には会場を提供し、対象者は参加している。近隣の幼稚園保育園と交流し、お花見も一緒に行なったり、施設で行なっている移動喫茶にはボランティアの方やご家族も協力してくださっている。	
			(外部評価) 川清掃、盆踊り等地域の諸活動に積極的に参加すると共に、近隣の幼稚園や保育園との交流も大切にしている。移動喫茶等、ボランティアや家族の協力を得ながら様々な形で「ホームにとっての地域」という視点で近隣との交流が持てるよう工夫している。	法人は長年にわたり地域に根ざした活動を続け、ホームとしても「地域」との関わりをととても大切にしているため、今後は更に「個々の利用者にとっての『各々独自の地域』」という視点に対する意識を深めることで、より一層のきめ細やかな交流が日々の中で深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 前管理者は長年の認知症ケアの経験を生かし、認知症キャラバンメイトとして貢献している。また人材育成の為、実習生の受け入れを積極的に行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議がきっかけで開始した移動喫茶は2ヶ月に1回定例となり、5名くらいのボランティアの方が来てくださっている。お花見等の外出行事にも参加して手伝ってくださる。また園児との交流も月1回の定期となり、入居者の楽しみである。	
			(外部評価) 市役所、地域包括支援センター、市社協、町内会長、近隣の保育園園長など、幅広い立場の方々が積極的に関わっている。そのため、多角的視点からホームの取り組み内容や課題等について共有されており、様々な行事や活動、改善等に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加して下さり、行事報告やホームだよりにて様子を報告し、担当者からアドバイスを頂いて改善につなげている。また「センター方式」の導入にあたり、職員対象に市担当者に勉強会をお願いした。	
			(外部評価) 運営推進会議や、管理者を中心とした市担当窓口との情報交換を通して、具体的な示唆を受けるなど、連携を密にしている。こうした関わりを運営上の改善に繋げるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングなどで日頃のケアを話し合い、入居者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしをして頂けるよう支援を行なっている。	
			(外部評価) 「拘束をしないケア」を絶えず意識して工夫や努力を重ね、日々のケアに取り組んでいる。職員による話し合いを積極的に行い、「利用者の自由な生活の支援」の実現を目指して、見守りや付き添いの工夫等に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) サービス向上委員会に身体拘束虐待防止委員会を設置し、研修会に参加した職員に発表してもらう。職員のストレス疲労を溜めないよう、休憩を十分取れているか把握するよう心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) グループ内に専門家を置き、必要な人には、活用できるよう窓口を設置している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際に利用料や起こりうるリスクなど詳しく説明し同意を得ている。入居者の状態変化により、契約解除に至る場合は、ご家族と対応方針を相談している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を作成し自由に意見を出して頂けるよう設置している。家族会などで要望意見などを、自由に発言して頂く雰囲気作りに心掛けている。 (外部評価) 意見箱や利用者・家族との日常の関わりに加え、アンケートやメールによる意見交換を行い、また家族会で「家族だけで話し合える場」を設定する等、「意見や要望を出しやすい雰囲気づくり」を心がけている。また、運営推進会議等様々な機会を通して情報を共有化し、要望の実現に向け積極的に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回のメイト会を行い自由に意見や要望を出せる雰囲気を作り意見を聞くようにしている。 (外部評価) 管理者は、職員会や全体会議等、意見交換の場の設定と共に、休憩時間を上手く活用する等により職員が自由に意見を出せる雰囲気を大切にしており、迅速で適切な対応を図り、意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けて情報提供したり支援している。資格取得後は本人の意向を重視しながら職場で生かせる労働環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外で行なわれる研修には代表の職員が参加し、職員会で発表してもらい、研修内容は全職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地区のグループホーム連絡会に所属し、他グループホームとの交流や学習会を行い、サービスの質の向上を目指している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と話をすることを大切にし、悩みや困っていること、希望や願い等を日常的な会話の中で引き出すよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の苦労や今までのサービスの利用状況などこれまでの経緯についてお話を聴き、本人の状態も考慮して、よりよい生活ができる環境と一緒に考えるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めて相談に訪れた時にグループホームの利用前提に話を進めるのではなく、早急な対応の必要な相談者には可能な限り柔軟に対応し、場合によっては地域包括支援センターや他のサービス（ショートステイ、有料老人ホーム等）の利用につなげたりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者は人生の先輩であるという気持ちを職員が共有しており、日頃から入居者に教えてもらうこと、いたわってもらったり、励ましてもらう場面も多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 移動喫茶のボランティアの方に混じって、ご家族がウェイトレスをしてくださったり、グループホームの玄関のお花はいつも気にかけて生けてくださっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎月の命日にお墓参りを娘さんと続けている入居者がおられたり、毎朝2,3人の家族や友人に電話をかける方もおられる。馴染みの関係が継続できるよう支援している。「〇〇さんの日」と称しサービス計画に入れて馴染みの場所に行ったりもしている。 (外部評価) 利用者それぞれに「〇〇さんの日」という日を設定することで、職員間で利用者の「馴染み」について自然と情報交換が行われ、それまでの関係性等について共通の視点を持ったケアに努めている。また、冠婚葬祭や墓参り、利用者本人とゆかりの深い生活行事に利用者自身が関わられるような支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個別に話を聴いたり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士が過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役になって支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで利用契約が終了してもお見舞いに行ったり、亡くなった入居者の奥様のサービス利用の相談に乗ったり、入院された方の介護保険の更新申請を代行させて頂いたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の言葉や言葉にしづらい思いを日々の行動や表情から汲み取り、把握するよう心掛けている。	
			(外部評価) 利用者の日常生活の様子やケア、対応等に関するきめ細かな記録と情報共有を通して、日常の様々な場面の中で表出される思いや意向を汲み取って対応しようと努めている。	利用者の心身状況について、全職員が随時把握して情報共有するためにきめ細やかな記録がなされているため、今後はさらにこの貴重な情報の整理や共有の方法を工夫することで、より一層支援に役立てていくことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や関係者から聞き取ったり、日頃の訪問時に知人、友人、親戚、家族から少しずつ把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 関係者による「できない」という情報にとらわれず、できる力、わかる力を暮らしの中で発見していくことに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人が自分らしく暮らせるよう職員や家族関係者の気づきや意見を反映しながら本人本位の介護計画を作成している。「〇〇さんの日」に実現したい本人の希望も入れたりしている。 (外部評価) きめ細やかに記録し、個々の介護目標毎に一応の個別評価をする等を通して、綿密なモニタリングができるように努めている。また計画策定に当たり、利用者・家族にも参加してもらうなど、思いや意向を反映できるよう努めている。	モニタリングについては、次の計画策定と実行へ取り組んでいくために、評価の仕方をさらに工夫することを期待したい。また、介護目標は、利用者と職員がより一層達成感を実感しながら進めていける様な工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に食分量、水分量、排泄など身体的状況及び暮らしの様子、本人の言葉、エピソード等を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしており、日々のかかわりや介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 昨年末より短期利用型共同生活介護（ショートステイ）を開始し、入居申し込み待機者を中心に体験入居をして頂いている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回ボランティアさんの協力により、定期的に移動喫茶が開催され、また月1回ずつ保育園、幼稚園より園児が交流に来てくれ、入居者の楽しみとなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医で 診察が受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を 行なったり、往診してもらったりしている。 (外部評価) 日常の心身状況やその変化が把握できるように、記録 等を通して、協力医療機関及び利用者のかかりつけ医 との情報の共有化に努めている。また、必要に応じて 家族の協力を得ながら、状況に即した医療サービスが 受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組 んでいる。変化等気付いたことがあれば、直ちに看護 師に報告し、適切な医療につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院によるダメージを極力小さくする為、時々職員が 見舞うようにしている。また家族とも回復状況等情報 交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に関する考え方、本人及び家族との話し合いや 意思確認の方法等、看取りに関する指針を定め、家 族、医師、看護師を交えて話し合いながら支援してい る。 (外部評価) 入居時に利用者・家族に看取りや終末期における対応 について説明し、入居後も状況に応じて主治医等を交 えた話し合いをして、多面的な視点で共に考えていけ る体制をとっている。また、医療面での限界を踏まえ ながら、ホームとして可能な形で利用者・家族の「心 のゆらぎ」にあわせて寄り添えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設当初、全職員対象の応急手当、救急法の勉強会を行ない、最近ではAEDを使用し救急法の勉強会を実施した。また夜間の緊急時対応マニュアルを整備し、職員会で周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回入居者と共に夜間想定避難訓練を行なっている。地域の協力体制については運営推進会議にて町内会長さんより非常放送を行なって頂けることになっており、日頃移動喫茶に来てくださるボランティアさんにも協力を呼びかけている。 (外部評価) ホームを含む法人の複合施設が、地域での災害避難拠点となることも踏まえ、ホームとしても運営推進会議等を通して情報交換し、地域の防災活動にも積極的に関わっている。また、共に支えあう為に町内会や地域包括支援センター等と協力して、地域の高齢者の災害対策について考えるよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念に基づき入居者を敬う気持ちを忘れないよう心がけている。ミーティングの際に日々の関わりかたを点検し、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。 (外部評価) 管理者・職員は「利用者を敬う」心を根底に、いかにすれば利用者・家族の「笑顔」が見られるか、何時もそのことを念頭において日常の支援を行っている。ケアの過程で「嫌がられる」場合があっても、利用者の尊厳を傷つけないよう、状況に応じた様々な工夫とチームワークにより対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者に合わせて声をかけ、小さい事でも本人が決める場面を作っている。意思表示の難しい方にも二者択一でもいいので、自己決定して頂くよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、朝寝坊 散歩 昼寝 夫婦で日向ぼっこ等柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の生活習慣に合わせて支援し、日頃も化粧やおしゃれを楽しんでもらえる様取り組んでいる。希望により美容院で、カット毛染めなどもして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 煮干の頭取り、みそ汁の具材切り、味付け、米とぎなどを入居者も一緒に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事を摂れるよう雰囲気作りも大切にしている。 (外部評価) 様々な関わりを通して汲み取った好みや要望に配慮し、栄養管理の行き届いたバランスよい食事を個々の心身状況にあわせて提供している。ご飯と味噌汁、更には収穫した芋等の食材を利用者を交えて調理する等、香りと音も含め「食事」という時と空間を共に楽しめる雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士がカロリー栄養を考えたメニューに基づき調理し、摂取量も一人ひとりチェックしている。特に水分管理の必要な入居者には、水分摂取量も記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者の状態に合わせて職員が見守ったり、介助したりして、毎食後の歯磨きをしている。就寝前には入れ歯の洗浄を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりのサインを把握し、さりげなく支援している。尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来る様支援している。失敗された場合も自尊心を傷つけないよう配慮している。 (外部評価) 必要に応じてパットを使用する以外はおむつは極力使用せず、自立支援を念頭に、記録等で排泄状況を把握しながら、トイレに誘導するなどして対応している。嫌がる方には決して強制せず、本人の好みの絵画をトイレに飾る等、さりげなくプライバシー保護と尊厳保持に配慮した対応を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄パターンを記録し、食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品、寒天ゼリー等を提供している。また散歩などを行い腸の働きを促すよう努めたり、水分補給にも注意し、なるべく自然排便が出来る様取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一応入浴日は決まっているが、一人ひとりゆっくりと時間をかけて会話をしたり、唄を歌ったりしてリラックス出来る様支援している。入浴を拒む方は言葉かけや対応の工夫、チームプレー等で入浴支援を試みている。 (外部評価) ゆったりと時間をかけて入浴を楽しめるように配慮している。入浴を好まない利用者に対しても、馴染みの職員がさりげなく上手に関わることで、清潔を保持しつつ少しでも楽しんで入浴できるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、一人ひとりの体調 表情を考慮して個別にソファやベットで、ゆっくり休息がとれる様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服用する薬の内容は、個人ファイルで全職員がいつでも確認出来る様にしている。服薬時はその人に合った服薬方法を取り、飲まれたかどうかの確認にも気を配っている。また、症状の変化の確認に努め 看護師 医師に情報提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 花の手入れ、鈴虫、カブトムシの世話、畑の作物の収穫などをして頂いたり、洗濯物たたみ、テーブル拭きなどご本人の出来そうな事をして頂き、感謝の気持ちを伝える様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月第3金曜日は、お買い物の日として希望を聞いて外出している。コスモスや桜の季節には、ご家族、ボランティアの方々に協力をお願いし、お弁当持参でお花見に出かける。また、「〇〇さんの日」と称し本人と相談しながら希望の場所へ出かける支援をしている。 (外部評価) 買い物や動物園・夏の夜市見物などの外出行事については、利用者・家族の希望を基に、適宜対応できるように配慮している。敷地内にある芋畑や花壇の手入れ・水やり等、ごく身近な外出については、見守りや付き添い等の工夫で自由にできるよう努めている。	職員は、外出する雰囲気づくりの必要性や大切さを感じ、実践へと繋げていきたいという気概をもってケアに取り組んでいる。比較的時間にゆとりがもてる日曜日を活用する等、身近な屋外への外出支援の継続・充実を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その人の希望や能力に応じて自分で管理している方もおられる。買い物に行く時は本人が、支払ったりする事を支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙が書ける方には書いて頂いたり、毎朝、家族や友人に電話する事を日課にしておられる方もある。いつでも電話がかけられる様公衆電話を、設置している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ゆず湯、菖蒲湯、七夕飾り、クリスマスツリー、ご飯の炊ける香り、みそ汁のだしなど季節感や生活感を五感で感じて頂けるよう工夫している。冬は畳スペースにコタツを設置し、ゆったりと過ごして頂いている。	
			(外部評価) 明るく清潔な空間を保つことを心がけると共に、玄関には花、廊下壁面等には行事や外出時の写真や利用者の作品を飾り、親しみやすい雰囲気づくりをしている。建物の設えは木を意識した落ち着いた雰囲気、華やかさも上手く保ちながら、季節感や生活感を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂にソファを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は全て個室になっており、使い慣れた物、写真や思い出の品々を持ち込み、入居者の居心地のよい空間を作ることが出来る。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりが使い慣れた家具、冷蔵庫、テレビ、身の回りの品等を自由に持ち込んでいる。また、家族や思い出の写真、家族の手作りの作品などを飾るなど、落ち着いて居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の入口には写真や名前を貼ったり、トイレのドアに「トイレ」と表示したりして、自立して暮らせるよう工夫している。	